

月刊
monthly

DAY

[月刊デイ]
<https://daybook.jp/>

VOL.274

10 2022
月号

特集1

喜ばれる!盛り上がる!

秋のイベント 大集合

特集2

ピンポイントにアプローチする

通所リハの 特化型プログラム



充実の
45ページ!



本誌素材集より「やさしい」1冊

◎脳トレがやさしい! ◎文字が大きい! ◎めり絵の構図がシンプル!

「やさしい素材集」発売中! 一冊450円(税込495円)

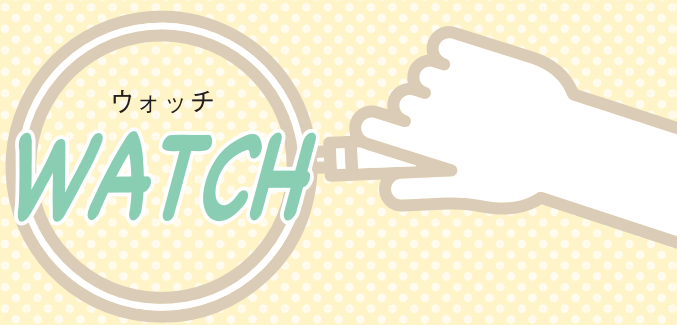
本誌にはない
めり絵・脳トレ
動画も入った

10月号
対応

お役立ち ツールDVD

別売 定価880円(税込)
発売中!!

人気デイの 取り組み



全国の事業所で行われている特徴的な取り組みや工夫を紹介します。

第7回

PT・OTを5名配置する地域密着型通所介護

「歩くこと」にこだわった事業所作り

株式会社Walongが運営するデイサービスアルモ中津（以下、アルモ中津）は、理学・作業療法士を多数配置する半日型のデイサービスです。管理者で理学療法士の中上^{なかみ}さんが病院や訪問看護などで勤務する中、「高齢者が地域の中で運動できる機会や場所が少ない」と感じ、療法士としての強みを生かしながら、リハビリの知識や技術を持ったスタッフのい

る事業所を作ろうと立ち上げました。

高齢になっても、やりたいことを行うためには、歩く機能が残っている方が実現・達成したときの満足度が高まります。そこでアルモ中津では、「歩くこと」に注目し「歩くためにはどうすればいいか」を常に考え、「歩くこと」と「歩けるようになった先の生きがい」を後押しする訓練に力を入れています。

療法士によるオーダーメイドの訓練が可能

現在、アルモ中津には理学療法士4名、作業療法士1名が在籍しています。事業所内にはベッドを置かず、療法士によるマンツーマンでの時間を割いたマッサージは実施しません。療法士による小集団トレーニングを通して、体の動かし方のアドバイスや運動負荷量の調整などを随時行い、オーダーメイドのリハビリプログラムを提供することがアルモ中津の強みです。

どのスタッフも専門職の立場からアセスメントやプログラムの立案ができるため、仕事の負担が偏らず、専門用語を使って情報共有できるなど、療法士が多いと運営面でもメリットがあります。



トレーニング中、どのスタッフも適切なアドバイスをすることができる



デイサービス アルモ中津（大阪府大阪市）

- 定員** 18名
- 営業日** 月～金曜日
- サービス提供時間** 9:00～12:10/
13:30～16:40
- 職員配置**
 - ・管理者…1名
 - ・生活相談員…1名
 - ・看護職員…1名
 - ・介護職員…2名
 - ・機能訓練指導員…3名

要介護度別の人数

要支援1	9名
要支援2	23名
要介護1	11名
要介護2	15名
要介護3	15名
要介護4	3名
要介護5	3名

HPは
こちら



（令和4年7月現在）

4つのエリアで行う歩行練習

アルモ中津では、ご利用者を1グループ5～6人の小集団に分け、フロア内の4つのエリア（コード／自転車／歩行／マット）を順番に回りながら訓練を行っています。それぞれのグループには、指導する療法士とサポートのスタッフが付き、訓練がマンネリ化しないよう、ご利用者それぞれに合った運動メニューを毎回提供するようにしています。

1. コードエリア

コードを使い、バランスや可動域訓練などを行う

2. 自転車エリア

負荷を調整しながらエルゴバイクをこぐ運動を行う

3. 歩行エリア

10mの直進コース。手すりを使った運動なども行う

4. マットエリア

床からの立ち上がり訓練などを行う



歩行エリアでは、足上げ運動やスクワットなども行う



時にはグループ合同で歩行訓練を行う。ゲーム性を持たせるなど、ご利用者同士の仲間意識を高める工夫も

「次はこの動きに挑戦!」と、ご利用者の能力に合わせた新しい運動メニューのアイデアが次々とスタッフから出てくる

AIによる歩行分析で改善例を「見える化」

アルモ中津では、AI歩行分析ツール「トルト」（株式会社エクサウィザーズ）を導入し、ご利用者の定期評価や、体験利用時の様子を伝えるツールとして活用しています。5m歩行の動画を撮影すると、瞬時に歩行分析ができ、結果がグラフや数値で示されることから、ご利用者だけでなく、ケアマネジャーなどにも「具体的で分かりやすい」と評判です。LIFEだけでなく、このような身体状況のデータを蓄積し、より科学的根拠に基づいたリハビリを提供していくことを目標にしています。



床には1mごとに印が付いているので測定時に便利

タブレットを使って歩行の動画を撮影

療法士の採用と今後の展望

病院などで働くことが多い療法士の中には、デイサービスに対して古いイメージを持っている人も多くいます。療法士の採用では、そのような固定観念を崩し、事業所の理念や目標を明確に伝えることが大切だと言います。中上さんは、セミナーやSNSなどを通じ、地域社会の中で療法士としての価値を高められる場をつくりたいという思いを発信していた

ところ、それに共感する仲間が集まりました。

今後は、療法士が多いという点を生かしながら、医療機関やほかの事業所とも連携し、リハビリができるデイサービスとして、退院後の受け皿や、通所リハ、長時間デイ卒業後の運動の場としての役割を担っていけるよう、リハビリの内容やサービスを充実させていく予定です。